

秘密結社
系本
を暴く

を暴く

特254
807



著喬川澁

10

版院書陸大

1



0038956-000

特254-807

秘密結社を曝く

澁川喬・著

大陸書院

昭和14

AGH

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第67条の規定に基づき、平成12年3月2
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

秘
密
系
本
社
を
暴
く

を
縛
る

特254

807



著 喬 川 澁

10



版院書陸大

特 254
807

496



澁川 喬著

支那を知る鍵

秘密結社を曝く

大陸書院版



目次

一、支那は秘密結社の國 三

二、秘密結社と腐敗政治 八

三、秘密結社の正體 一〇
 大刀會、紅槍會、を探る

四、土匪結社と暗殺組合 一六

五、秘密結社の怪奇味 二〇
 三合會と哥老會

六、蔣介石の「ゲ・ベ・ウ」 二六
 藍衣社とCC團

支那を知る鍵

秘密結社を曝く

澁川 喬著

一、支那は秘密結社の國

同文同種などといはれてゐる支那だが、それでゐて支那は「謎の國」だといはれてゐる。支那の知識がなくて支那が理解出来ないといふなら解つてゐるが、いろ／＼研究もし、そこに長い間住んでもみ、支那人ともつきあひ、支那を知れば知る程、ますます／＼解らなくなるのが支那だといふ。どこまで行つても解けないものがあるといふので、支那を指して「謎の國」とはいふのだが、ここに取りあげる秘密結社などは、支那の理解を妨げ、支那をして「謎の國」たらしめてゐる大きな存在である。

支那人は、いはゆる大陸風たいりくふうといふか、小さな事に拘泥しない性質で、日本人などに比べてすつと

人間に臭味があり、親しみ易い國民だが、馴れ馴れしいくせに、いくらつき合つても、さつくばらんに自分をさらけ出すといふことをしない。つねに何かを隠してゐるやうに見えるので、氣の早い日本人は、支那人は尊大振つた形式主義者だと思ひ、煮ても焼いても食へない國民だとして痼癩を起してしまふ。

腹を立てるのも無理はないが、支那人としては何も日本人を信用しないからといふのでなく、支那人同士の間でさへも心易くうち解けさせないものがあつて、それが秘密結社である。

支那には有名な秘密結社が三十種ばかりもあり、それがまたいくつかの小結社に分れて全國に散在してゐるが、その目的や行動からみると、匪賊的なもの、宗教的なもの、政治的なもの、特に抗日を目的とする結社の四つになる。

彼等の間には、特別な隠語や暗號があつて、同じ結社に属する仲間同士が、隣り合つて住んでゐてさへそれと解らない位にその秘密は嚴守されてゐる。結社の秘密は妻子にも漏らすことが出来ない。監視の眼はどこに光つてゐるか解らない。規約に反すれば、萬刀の下に死があるのを覺悟しなければならぬのだ。外國人はもとより、隣人同士、親族や知人でも氣が許せないのである。

その一斑を知るために、政治結社である三合會の隠語を擧げてみると、さつとこんな調子だ。

會合……放馬或は舞台開き。

仲間……香或は豪傑。

普通人……風或は氣違ひ。

髪の毛……青糸。

豚……毛瓜。

豚肉……白瓜。

牛肉……大菜。

犬……蚊。

米……沙。

阿片……雲遊。

阿片を吸ふ……雲を咬む。

茶……青蓮。

水……三河。

油……洪順。

茶碗……蓮蓬。

盃……蓮米。

蠟燭……古樹。
蚊帳……燈籠。
着物……袈裟。
ズボン……菱角。
靴……鐵板或は雲の蓋。
傘……洪頭或は獨脚。
道路……糸。
旅行……絲に遊ぶ。
衆……甲子。
小刀……獅子。
大砲……黒犬。
大砲の音……犬が吠える。
火藥……犬の糞。
銀貨……瓜子(瓜の種)
銅貨……胡麻。

手……五爪龍。
耳……順風。
首を斬る……顔を洗ふ。
海……大天。
密會所……古松。

これが仲間同士の言葉で、仲間らしいと思はれる人間に道で出會つて、その者が果して仲間かどうかを知らうとするには、だしぬけに、「お前は盲かね。」と尋ねてみる。「いや、盲ではない。私の目はお前の目より大きい。」と答へれば仲間だ。それが三合會の相言葉である。

三合會はまた天地會ともいつて、幾十萬といふ黨員を擁し、この結社から他のあらゆる結社が生れたもののやうにさへいはれてゐる。三合會は大體、清朝を仇敵としてこれを顛覆する目的で起つたので、事毎に官兵と争つた。ある時は官兵の乗り込んでゐる船を襲つて五百人も兵を皆殺しにするかと思ふと、ある時は官兵の三合會征伐で、三合會員の逃げ込んだ村落の良民老幼までをことごとく三合會員と見做し、毎日、數百人數千人と捕へて殺し、その數が百萬を超えたこともある。

清の光緒十三年、西太后が獨裁政治を行つてゐた時、支那の至る所に横行して政治を亂したそれ等の秘密結社を取締るために、秘密結社條令といふものを制定して、その集合を禁じ、各人に五百

元から千元の罰金をいひ渡したりしたため、秘密結社をしていよく秘密主義に走らせ、その動靜は當局に解らなくなり、取締ることが不可能になつてしまつた。そこへもつてきて、犯罪者は秘密結社をよい隠れ場所にするので、秘密結社は一層に黒魔的横行を活潑にしてゐるわけである。

かういふ次第だから、結社の目的は何であつたにしても、社會の暗黒面に一大勢力を張つてゐる秘密結社として、惡の性質を帯びないものはない。早くいへば、陰謀團であり、暗殺組合であり、犯罪者の集團である。それが、ホテルであらうと、汽車の中であらうと、飲食店であらうと、どこにでもうろつゐて、親しい隣人でさへも怪しいとなると、うっかりしてゐられない。「人を見たら泥棒と思へ」といふことがあるが、支那では「人を見たら秘密結社と思へ」といつてもよささうである。ともかく、それだけの用心を忘れてはならない。

普通の支那人は「社員」といふのを非常に嫌ふが、それはほかでもない、秘密結社員を聯想するからである。満鐵が出来た當時、支那人も多數入社したが、満鐵社員といふのをひどく嫌がつたものだといふ。秘密結社は實に支那を裏面から支配してゐるといつてもよい位である。

二、秘密結社と腐敗政治

支那を秘密結社の國と呼んだからとて、秘密結社が支那の專賣といふわけではない。帝政時代の

ロシアの虛無黨、いまの共產黨、ユダヤ民族にからんでよく問題になるフリーメーソン、アメリカの國粹主義三K團等々、いづれも皆秘密結社である。しかもそれ等は秘密結社とはいひ乍らその正體を知られ過ぎてゐて、あまり秘密結社らしくない。秘密結社らしい秘密結社はやはり支那の秘密結社である。それは支那の國情に由來するといつてしまへば簡單だが、もう少し突き込んでいへば政治の腐敗が根本の原因だ。政治が正大公明ならば、秘密結社などは作る必要がないし、作つてもそんなものが盛大にはならない。歴代に亘つて支那の政治が腐敗し切つてゐることは話のほかで、苛斂誅求^{かへんしゅうまう}に至らざるなしといふ有様だから、國民はそれに對して自家防衛の手段を講じなければならぬ。それが結局、秘密結社になる。支那は古來、極端な専刺政治である。政府に反抗する者があると一も二もなく高壓手段をとつて押へつけられる。そこで不平分子は正々堂々と動くことが出来ないで秘密結社を作つて行動する。また、支那には教育が普及せず、全國民を通じて百分の九十五までか文盲^{ぶんもう}であるといはれるだけあつて、支那人の生活は迷信に充ちたものなので、野心家はそれを利用して秘密結社を作る。政府はあつても無いと同じで、匪賊は横行し、軍閥^{ぐんはつ}は暴虐の限りをつくす。それに対する法律の保障もなく、それを訴へる所もないから、國民は各自の生命財産をまもるためにそれらの秘密結社に加入する。秘密結社の出来る種を蒔いてゐる政府でさへが、直接ではなくても、地方官憲などになると、富豪から貢金^{かうきん}を取り立てるのに、事が面倒で手數がかかるとみ

ると、秘密結社である匪賊團を利用して取り立てて貰つたりする。かうして、秘密結社は支那の社會を温床としてますます繁殖し、いよいよ威を揮ひ、パチルスパチルスの如く、支那の國家と支那人自身をも蝕んでゐるのである。

支那の腐敗した政治の下に、最も苦しんでゐるのは農民だが、軍閥、官憲の壓迫から逃れる方法は、都會へ出て最下級の生活をいとむか、匪賊團に投ずるかの、この二つしかないといはれてゐる。匪賊團といへば、ただの盜賊とは毛色の異ふ一種の秘密結社であつて、それは軍閥や官憲に反抗的立場をとる百姓出身が多く、官憲に對しては「百姓の仇を討つてやる」のを名目とする義賊ぶつたのが多い。

「民となつて官兵に窮迫せらるるよう、如かず、草莽の英雄となつて天下に横行せんには。」とは、ある匪賊團の結社宣言にある文句である。支那の匪賊團が支那らしい秘密結社の一つたる面目を、この宣言は遺憾なく語つてゐる。

三、秘密結社の正體

大刀會、紅槍會を探る

支那に於ける秘密結社の歴史は古い。昔の秘密結社は道教的な迷信の上に結ばれてゐた悪政に苦

しんでゐる國民は、偉大な救世主が現れて自分達を塗炭の苦しみの中から救ひ出してくれることを夢想する。それがもし人の力に頼みがないならば、神様の威力を借りるより仕方がないとなつて、ここに迷信的な秘密結社が生れる。

支那の秘密結社として古々ののは、前漢の末頃（約二千年ばかり前）に赤眉といふ秘密結社の賊が起つたことがある。敵と間違はないやうに眉を赤く染めたところからの名である。當時、これを討つた官軍の間にさへ人望があつたといふから、何か宗教的の結社であつたに違ひない。一時大きな勢力を張つたこの赤眉も遂に後漢の光武帝に平げられたが、この時代には、赤眉のほか、銅馬、鐵脛、綠林、大槍なんかといふ聞くから怖さうな秘密結社が各地に横行してゐた。

降つて後漢の末には、黃巾の賊といふ純然たる宗教的の秘密結社が起つて天下を騒がせた。この結社は黃帝と老子を祀つて、符水ふすいを以て病氣を治したりしたので、民衆の信望を集め、十年ばかりの間に信徒は數十萬に達し、漢に代つて支那を治めるやうなことをいひふらして、盛んに荒れ廻つたものだが、官軍に討伐されて滅びた。迷信を利用した結社の騒亂としては支那でもこれが一番大き

5。隋の時代には黑社、白社と名づけた賊があり、宋の代には沒命社、霸王社、亡命社などの結社があつたといはれてゐて、支那の秘密結社は數千年來の傳統を持つてゐるのである。

宗教的であると同時に政治的な意味を持つてゐた結社に白蓮會なるものがあつて、「世亂れて彌勤菩薩が降生する」と豫言し、病氣治しをやつて多數の信徒を集めたが、それは元の時代で、その目的は蒙古人を驅逐して元に征服された漢人の天下を復するにあつた。この白蓮會の流れを汲んでいろ／＼の結社が生れた。天理教もさうであり、義和團事件を起した義和團もさうであるし、大刀會、小刀會、紅槍會なども白蓮會から出てゐる。

白蓮會のことなどはどうでもよいが、現に支那から滿洲にかけて盛んに活躍しつゝゐる大刀會や紅槍會については、少しばかり探りをいれてみる必要がある。

大刀會は大體、地方村落の自衛團として起つた結社だが、勢力が大きくなるにつれて政治的な民軍と化し、滿洲建國當時、滿洲だけにさへ五十萬からの會員があつて我が軍に反抗し、討伐隊を惱ましたものである。

彼等はずねに秘密の刀法を習練してゐて、その勇猛さの上に宗教的迷信を以て團結してゐるといふことに極めて勇敢なものがあつた。その呪文護符には、

「天神地神日月星辰の各神皆來れり。黒虎來りて身を護り、龜蛇の二將來つて生命を保護せり。萬法白中靈驗あらたかなり。祖師の勅命に依り無星來つて陣地を壓し、敵人驚愕す。無星佛を請ふれば東海を劈雷一聲天地神日月星辰の各神位一處に集まり、天神の女王中央に穩生し、百香烟を

受け、白面將軍は前心を護し、黒虎將軍は後心を護り、顔を天に向け氣を吐けば萬法皆あらはれ、十萬の神兵、十萬の鬼兵、南斗北斗七星皆來る。太老者の勅命を急ぎ奉じ、眼を閉ぢ、手を捧げ、十字を空に書き、地方部長位、南方高元明、東方王炳海、西方邱米具、中央李廷正の五大教主、一處に來り、神を稱し、手を組み、阿彌健と經念すれば、十萬の悪人も敵し難し。」

のやうなものがあり、また、生命よりも大事にする大刀會符なるものがあつて、それを帯びてゐれば決して彈丸にあたることなく、刀で斬られても傷を負はないと信じられてゐた。その符といふのは、龍の形が描かれて、「神明を保持して身を護る」を中心に、八方から次のやうな文字が記されてゐるのである。

(イ) 刀法を習練してゐれば決して彈丸にあたることなし。

(ロ) 女も鐵の着物を着たと同様に丈夫なり。

(ハ) 一般會員の身體は金剛の如く丈夫なり。

(ニ) 刀兵は水火に入るも何等危害を受くる虞れなし。

(ホ) 祭典場を設け神に祈り英雄豪傑を定む。

(ヘ) 善男善女となり孝道を進む。

(ト) 大神(玉主老母)より大命下る。

(チ) 我真武を選び東鄙に下す。

かうした信仰によつて、恐るるところなく軍閥の苛劍誅求に反抗し、兵匪に對するといふ集團的行動を採つてきたため、宗教的自衛結社から政治的秘結社と見られるやうにもなつた。

滿洲で我が討伐軍に向つてきた場合でも、その勇敢さは正規軍の比でなかつたが、一頭目が機關銃にやられてからは、その信仰を弱めて、討伐を恐れる會員が四散し、滿洲に於ける勢力は地を拂ふに至つた。しかし山東省あたりでは現に自衛團として存在し、その數百萬以上といはれてゐる。

紅槍會も大刀會と似たもので、農民の自衛結社として生れたものだが、宗教的色彩に富む政治結社といふべきだらう。各地の紅槍會事務所はその地方の廟などに設けてあつて、軍隊の司令部のやうに嚴重である。門前に方三尺の黃龍旗を掲げ、そこを見張る者は紅槍(朱房の附いた槍)と大刀を持ち、ピストルを携帯する者もある。戦ひに臨む時は腰間に紅や黃の紙を挟むか、その中には護符が入つてゐるのである。そして左腕には黃布に「神師口授仙言保衆團」などと朱書したものをつけ、頭は辨髮といふ古風に恐しげな風菜につける。不死身術と稱する武術をつねに練磨するなどもこの結社の特色である。

國民軍の暴政に反抗して百餘輛の貨車に滿載の武器を奪取したなどのこともあり、また民國十六年に奉天軍が河南に進出した時などはその二個師團を紅槍會によつて武装解除する程の威力を發揮

した。さうした果敢な歴史を持ち、戦ふ毎に敵の兵器彈藥を奪ひ、隱然たる勢力を築いて、官憲の力でも軍隊の力でも彈壓が出来ないまでになつてゐる。そこで國民黨の某要人の如きは紅槍會を以て「民國の蠻族」と稱してをり、蔣介石は勿論、南北支の軍閥や共產黨がその勢力を重視して利用を考へたものである。中でも中國共產黨は紅槍會に就いてゝの決議をしてゐるが、その一部には次のやうなことがある。

- 一、紅槍會は民族革命途上に於ける軍閥破壊の一大武器である。故に吾々は此の勢力を指導すると共に、軍閥をしてこれを利用せしめざるやう警戒を要する。
- 二、紅槍會は民衆の軍閥に反對する一種の勢力だが、これは他の勢力と聯合し或はその指導を受けることに依つて初めて目的を達し得るものである。目下の紅槍會はその組織が散漫で迷信的であるから、破壊性に富むだけで建設力が少い。
- 三、必ずしも積極的には紅槍會の迷信に反對しない。何となればその迷信は正に彼等の團結と奮闘の根本的要素であるからである。
- 四、紅槍會の指揮權はつねに土豪の掌中に陥り、土豪の利用する所となり易い。土匪的性質の紅槍會もまた土豪が勢力を得る土台になつてゐる。吾々の彼等に對する政策としては、彼等を軍閥に反對する旗幟の下に結合することが出来ない場合には、先づ第一歩として真正の紅槍會を

軍閥政治の壓迫から庇護獨立せしめ、第二には土匪的性質の紅槍會を土豪に利用させず、これを農民の味方として却つて土豪に反對させるやうに操縦させなければならぬ。これでも紅槍會の勢力がどんなものか大體想像が出來やう。

四土匪結社と暗殺組合

大刀會や紅槍會は軍閥の暴虐と土匪の害から地方民を護る自衛團として起つたものだが、それがよく土匪化するのを見ても、支那に土匪の盡きない所以が解る。土匪の横行の最も盛んなのは河南で、河南人は「この世に生活するのに三通りしかない」といつてゐる。兵隊になるか、土匪に投ずるか、紅槍會に入るかである。この三つのどれかに依らなければ、百萬の富、千町の良田を持つてゐても食つて行くことが出來ないといふのである。官兵は不當の御用金を取り立てる、土匪は人質をとり、財産をまきあげ、果は一命まで奪ふといふ有様だからである。

この土匪がやはり秘密結社であるが、その構成が面白い。ここに張といふ一人の男があるとす。どこから手に入れたにしてもよいが、この男がピストルを二挺持つて土匪になり、土匪の大群に加入するか、或は單獨でちよ／＼稼ぐとする。ところで一人で二挺のピストルは邪魔だから、一挺を土匪志願者に貸してやることになる。すると張は親方になり、ピストルを借りた男はその子

分といふことになつて、一切その指揮命令に従はなければならない。稼ぎがあつても分け前にさへ與れない。それはピストルを標準に分配する規則だからである。どんな大仕事でもピストルと銃の挺數によつて割り割をきめるので、ピストルも銃も自分のものを持たない者は親方から僅かの骨折りを買ふだけである。その子供が金を貯めてピストルを一挺買ふ。借りてゐたピストルを親方に返してピストル挺の所有者となり、初めて分配にあづかることの出來る一人前の仲間になる。やがてもう一挺ピストルを手に入れる。一挺を土匪志願者に貸して、こんどは自分が子分を一人持つ親方になる。大群から成る土匪の結社も、かうした無数の親方と子分の關係から構成されてゐるのだ。

秘密結社としての訓練は行き届いたもので、その行動は組織的である。人質を狙つたり、財寶を掠めたりするのにも、行き當りばつたりに飛び込んで行くやうなことはしない。きまつた責任者があつて、その家の内情を詳細に調査する。どの位の財寶があるか、家の建て方、間の取り方、警備の有無、家族の様子、目的の人物はどの室にゐて何をやつてゐるか、どういふ嗜好と性癖があるか、いつもどんな時間に家にゐるか、背の高さ、身體やせふとり、顔の形、どんな着物を着てゐるか、入念な調査を行つた上で、どういふ手段で押し入るかといふことまで研究し、計畫を立ててから、仕事にかかると、この担任者を底綫（準備役）と呼び、仕事が成功すると全頭の十分の一を取る。この他、重要な役には、扛扇的（門破り手）、抱大火的（火つけ役）等があつて、整然とした

一絲亂れない行動をとるのである。

彼等土匪の團結力は非常に強大で、頭目の専制の下に絶對の服従と秘密の嚴守とを強ひられてゐる。結社に加入するにはなか／＼やかましくて、武器を所持する者の外は嚴しい膽力試験といふものを受けなければならぬ。たとへば強盜や殺人の惡事を重ねてきたものが入團を希望するとすると、

「貴様のやうな不埒な奴は入團を許すどころか、いますぐここで一刀兩斷に成敗してくれ。」とばかり、ギラギラした青龍刀を鼻の先にさし突けておどしつけられる。その時、臆病な者だとふるへあがつて憐れみを乞ふが、さういふのは勿論入團など許さず、追ひ出されてしまふ。膽力の据つた者になると、それをきくや却つて反りかへつて、

「そいつは面白い、それではひとつお刀を頂戴ませう。」とくる。かういふ手合ひを歡迎して優待するといふ調子である。

規律は嚴格で、制裁には容赦がない。土匪結社が特に女との關係を禁じてゐるのは、いふまでもなく秘密の漏洩を防ぐため、それを犯した者はたちどころに銃殺だが、制裁の規定は大體次のやうである。

一、頭目に抗したる者は死刑に處す。

二、掠奪の物品を隠匿したる者は死刑に處す。

三、武器携帯のまま逃亡を企て、又は逃亡したる者は、發見次第死刑に處す。

四、官憲に密通したる者は死刑に處す。

五、團員相互の間に於て争鬪せし者は答刑五十に處す。

六、職責を怠り、又は任意の行動をなしたる者は答刑五十に處す。

七、歩哨の勤務中に假睡したる時は、事態の如何により、死刑又は除名に處す。

かうして獍猛性を發揮する彼等にも似ず、つねに危險な行動に生きてゐるだけに、迷信的作法がいろ／＼とやかましい。食事には必ず酒を飲むが、その酒を飲む時に、右の中指に酒をつけて點々と五つ、食卓に點をつけてからでないといふ。その五つの點は天、地、君、親、師の五者を尊敬する意味だといふから、土匪でもそこらはいかにも支那人らしい。箸は兩方を合せて平らに食卓の上に置き、決して腕や皿に架けることをしない。架は人質の意で、人質を取るのには彼等の仕事だが、自分の方が人質になつてはたまらないといふのである。ふかし團子を食ふのに、豎に裂くのは構はないが、決して横に引き裂いてはならない。横は「横たはる」で死を意味するからである。猶兩手をうしろに組んではならないとか、伏寝をしていけないとかと、日常の約束がうるさい。鬼蓄のやう彼等でも人間的弱さだけは人並に持つてゐるのである。

支那の秘密結社にはまた暗殺組合があつて、別に名づけて殺人黨とも呼ばれてゐる。これは支那本國ばかりでなく世界的に發展してゐて、アメリカあたりでは白晝公然と市街戦まではじめることが珍しくない。早川雪洲の演じてゐる映画「あつばれウオング」はアメリカ人の想像した支那人の殺人組合だが、これこそは秘密結社中の難物で、その底の底までは真相が掴めない。彼等は誰かを殺すときめたらどんな困難を排しても殺さすにはおかない。結社員の個人的な怨恨や復讐からでなく、結社そのものとしての決議が命令となつて下るので、それにそむくことは絶対に許されない。もし不成功に終り、警官に捕縛されて死刑の宣告を受ける時にも、その下手人が結社にとつての有望な青年であると（大抵さうなのだが）、結社の幹部からの指命によつて、活動出来なくなつた老人や廢人が身替りになつてあの世へ行く。金で解決する支那としてはそんなことは朝飯前である。身替りに立つのも結社員で、一人前の仕事が出来なくなつても衣食を給され、さういふ場合の役に立てられるのである。その代りその遺族は永久に扶助を受けるやうになつてゐる。

この暗殺組合、暗殺にかけては徹底してゐるが、節操といふものは少しもなく、頼まれれば、國民政府のでも軍閥のでも共産黨のでも簡単に引き受けて暗殺を敢行する。

五秘密結社の怪奇味

三合會と哥老會

秘密結社の怪奇味は、秘密結社の本領たる秘密の儀式や秘密の律法にある。秘密結社の一員となる入會の式はどんな風に行はれるか、先に擧げた三合會の場合でみるとかうだ。それは彼等の言葉で作戲と放馬とかと呼ばれてゐて、

「〇月〇日の〇時から某所で芝居をする。」

「さうかそれでは芝居を見に行かう。」

といつたやうな會話が交される。新入會者があつて立ち合ふのを看戲といつてゐるのである。新入會者を五十人以上まとめては行ふので、それはすべて新丁と呼ばれ、泥棒であらうが、乞食であらうが、金持でも、學者でも、官吏でも、商人でも、農夫でも、その間に階級や區別はない。

式は大體、城外（町の外）とか山麓とか人目を離れた場所を選んで會場とし、方五丈からの廣さをもつた假小屋か天幕張りの家が造られる。幕だけ張つて、外部と中央と内房の三つに區別することもある。その一つに秘密室が設けられて、關帝をはじめいろ／＼の神が祀られる。時間は大抵夜で、準備が整ふと、支部の頭目と社員とが、いづれも明代の衣冠、紅巾で髪を結び、會場へ入つて順次に香を焚き、神を拜し、神前に居流れる。新入會者は社員に導かれて入つてくるのだが、式場

へ入るまでには三つの關門があつて、關門は身を屈しなければならぬ程に低く且つ狭く、そこに衛兵が立つてゐて、型通りの問答が行はれる。新入會者はそれを覚えてゐていち／＼間違ひなく答へなければならぬ。

第一の關門。

衛兵「何しに來た。」

入會者「結社に名をつらねようと思ひ、洪家兄弟のために此處へ來た。」（洪家兄弟といふのは彼等の祭神である。）

衛兵「何で結社員となるのを知つた。」

入會者「召集の示諭を見たからだ。」

衛兵「誰がお前に教へたのだ。」

入會者「自分の意見で來たのである。」

第二の關門。

衛兵「お前はどこから來たか。」

入會者「東方から來ました。」

衛兵「いつ來たか。」

入會者「日月が東海を照らす時に來ました。」

衛兵「大道から來たか、小徑から來たか。」

入會者「大道」の中央から來ました。」

第三の關門。

衛兵「お前の保証人は誰だ。」

入會者「保証人は何の某。」

衛兵「兄弟は三分の米に七分の砂を混ぜて食ふが、お前は辛棒が出来るか。」

入會者「兄弟の食ふものなら何でも食ひます。」

衛兵「創と頸とどちらが堅いか。」

入會者「頸が堅い。」

それで難關を通過して、いよいよ新會員の誓ひを立てなければならぬ。それには頭目が首を落した牡鶏の血を碗にうけ、新入會者一同の左手の第二指を釘で刺して絞つた血をそれに加へ、三十六誓詞を認めた卷紙を焼いた灰をも投じて、堅く結び合ふしに皆が啜り合ふのである。その上で會員名簿に登録され、會員証、秘密符號、會則等の交付を受ける。

會則には、

「官憲に捕へられて罪を他の會員に波及せしめた者は、これを捕へて死刑に處す。輕き者兩耳を削ぐ。」

「他省より兄弟を召集する文書來りたる時、かくれてこれに應ぜざる者は死刑に處す。」

「兄弟危急の時、或は官憲の縣賞捕縛に遭ふ時は、告知あらばこれを救はざるべからず。もし知らざるを裝ひ規則に違はば、答刑百八十に處す。」

「入會後一ヶ月以内に會費を納めざる者は、兩耳を削ぎ、並に答刑七十二を加ふ。」

「兄弟の錢財を取扱ひ、これを濫費したる者は答刑一百八に處す。」

等と規定され、法律には禁じられてゐるこれらの私刑を巧みに行つてゐる。先に述べた隱語のほか、暗號には多く數字を用ゐるが、料を知らない三合員が互にその仲間であることを知り合ふには茶碗や煙草の並べ方だとか、一定の動作とかで解るやうになつてゐる。三合會と限らず、他の秘密結社でもやはりさうした方法によつてゐる。

三合會と並んで勢力ある秘密結社に哥老會があるが、この結社の作法ときたら呆れる程^雑雑で、起居動作にいち／＼細かな規定がある。その仲間同士の特殊な挨拶などは、我が國の香具師^しの仁義^{じんぎ}に似てゐる。はじめて會つた會員同士の挨拶として、

問「お訊ねしますが、貴下は何處からお出でになりましたか。」

答「私は來る處から來ました。」

問「何處までお出でになりますか。」

答「行く處へ行きます。」

問「在園（會員）の方ですか。」

答「私は在園の者です。」

といふ風に言葉を取り交し、互に姓名を名乗り合つてから、

問「貴下は金山銀山いづれの名山に屬しますか。金堂銀堂いづれの堂のお方ですか。」

答「私は義兄仁兄思兄拜兄の拔擢を蒙りまして、八寶會中の某山某堂に大哥の栽培を蒙り、某位に置かれてゐる者であります。」

とやら、それからやつと隨意の話をする。

哥老會の會員は、支部のある所なら、どこでも一錢の旅費なくて旅行が出来る。屬してゐる山主（支部の小頭目）の名刺を出して証とすれば、どこでも宿泊させてくれて、出立にはいくらかの路銀までくれるのである。それには訪ねて行つて、

「私は粗忽者^{そこつち}であります、貴下が高く腕をお上げ下さいまして、私の通ることを許されたい。

貴下は仁あり、義あり、能あり、此處に在つて旗を立てて元師となり、天下の英雄豪傑を集め、

る。

六、蔣介石の「ゲ・ペ・ウ」

藍衣社とCCC團

蔣介石政權もいまは一地方政權と轉落し、一路ただみぢめな自滅の運命を辿つてゐるが、これまでとにかく、彼は支那を代表して立つてゐた世界的人物だつた。何が彼をさうさせたか？ 國民黨の支持か。國民大衆の信頼か。彼の政治的手腕か。そのすべてであるに相違ないが、彼を斯くあらしめた脊後の力としては、最も大きく秘密結社藍衣社とCCC團を買はなければならぬ。

その對日意識は「徹底的對抗」であり、成都事件を思ひ起すまでもなく、支那の排日反滿の裏面にはいつも指導的立場をとつて暗躍してゐたのが藍衣社であつて、その意味では一個の抗日結社のやうであるが、それが藍衣社の仕事の全部ではなく、藍衣社は實に蔣介石を社長とするゲ・ペ・ウとして、蔣介石の政治的地位を護り、その政權を強化するのを唯一の目的として存在する奇怪な秘密結社である。頻々として支那に起つてゐる反蔣要人の暗殺や行方不明は國民政府の暗黒政治を物語るものであるが、そこに藍衣社の名を聞かないことはない。その綱領に、

- (1) 本社は中國の危急存亡を救ふを以て主旨とす。
- (2) 民主政治及び三民主義を放棄して、ファツシヨ主義を採用し、獨裁制の實行を目標とす。とあるが、それは蔣の獨裁權強化を正直に語つたもので、それが中國のためになつてゐないことは、中央執行監察委員會の抗議項目に、「社會を紊亂し、黨國に危害を及ぼす藍廣社、黨部、CCC團其他秘密結社を嚴重に懲戒すること。」とあるのをみても解る。それはともかくとして、政綱には
 - 1、誓死報國。國家獨立の精神を完成す。
 - 2、各國との不平等條約を一齊に改訂し、互惠平等條約を締結す。
 - 3、中央集權制を實行す。
 - 4、官吏の肅清を徹底し、官吏のファツシヨ化を實現す。
 - 5、積極的に實業、鑛業、農業を開發し、平均地權を實行し、併せて井田制を實行す。
 - 6、全國に亘つて手工業を奨勵し、全國工業區及び大規模の農業試驗場を建設し、勞資鬭争及び罷工争議の消滅を期す。
 - 7、全國の財政を整理し、節約政策を採用す。
 - 8、國防軍十師を編成し、全國徵兵制を實行す。
 - 9、三民主義教育を解消し、生産教育を提唱、平民教育を普及す。

10、男女の國民的地位は平等と認む。

11、速にファツシヨ主義新社會國家の實現を促成す。

とあり、それはそのままつくり蒋介石の理想としてゐたところの政策である。それを行ふための手段として、藍衣社はあらゆる凶暴な行動に出たのである。服務大綱の中にも、

宣傳「傳單を散布し、或は社會に激動を與ふるが如き過激なる宣傳をなし、或は無名の脅迫狀を送達し、又新聞により輿論を喚起指導す。」

制裁「非常時に處する憂國の意なき冷血漢、奸商、賣國奴の猖獗を防止するため殺害し、民衆を畏怖恐驚せしめ、互に相戒め違法行爲なからしむ。總て社長に於て被殺害者を指名し、賞金を授け殺害す。被殺害者は貧官汚吏、奸商、反蔣者、裏切者、制裁に従事する社員は精神強健にして軍事教育を受け、膽力大なるものを選び、密令と共に拳銃爆彈を携行せしむ。」

と明かに規定してゐる位である。以てその凶惡振りが想像される。一時は共產黨掃蕩に馬力をかけ、テロ手段を以て數百の共產黨員を暗殺したものであり、日貨を販賣する支那商人、邦人に接近する支那人が、奸商奸漢として迫害あるひは私刑に行はれた者はどれだけであるか解らない。更に最近の藍衣社は、一步を進めて、政界に、實業界に、言論界に、實質的の指導權を握るべく狂奔してゐた。

藍衣社の起りはさう古いことではない。滿洲事變の勃發した年の十一月、蒋介石は國內の信望を失つて下野しなければならなかつたが、やがて蔣汪合作成つて復活した時、自分の地位をまもる強力な背景の必要を痛感して、軍官學校出身の少壯將校を中心とする中國棒喝團なる秘密結社を組織した。それが後の藍衣社である。

結社員には、

1、「絶対服従」 上級社員の命令は理由の如何を訊すを許さず。如何なる困難、犠牲を伴ふも勇往邁進し、命令の機宜を失するを許さず。

2、「秘密嚴守」 一切社務事項の外部漏洩を禁じ、違反者は嚴重制裁す。

3、「簡易質朴」 質素を旨とし、生活を簡易合理化し、國産品を使用すべし。

4、「嗜好禁止」 絶対に、阿片吸飲、飲酒、女色に溺れず、賭博等を禁止し、品行の純正を保持すべし。

5、「信義尊重」 信義を尊重し、時間を嚴格にし、各同志間の約束を違ふべからず。

6、「轉身禁止」 同志は他黨派に轉身するを許さず。但し工作上他黨に入る必要あるときは豫め社長に報告して許可を受くべし。

7、「同志紹介」 新同志の入社には、同志二名以上の保證に依り紹介入社せしめ、紹介人は永

久に共同責任を負ふものとす。

8、「財政公用」 経費を要するものは實費を要求し、財務處に於て收受し事實を捏造して大外の請求をなし、或は財務者の私腹を肥すを許さず。

9、「同志和睦」 各同志は親愛和睦し、團體規律を遵守し、私派を設けず、私情を認めず。

といふ九個條の服務規定があつて、この鐵則に違反するときは殘虐目もあてられない制裁を受ける。

藍衣社の經費はといへば、軍費の中に三十萬元計上され、別に蒋介石の手元から三萬元出てゐた。社員は、軍官から成る五百名の中堅を純社員とし、一般社員二千名、それを十人一組として全國の軍政各機關に配置してある。猶、前衛團體に鐵血團、偵察隊、圖在社、東北救亡社、肅反隊等、外廓團體に武昌行營副社俱樂部、干城同聯會、勵去社、黃甫同學會、四維社、憲兵幹部團等があつて、その總員は約三萬といはれてゐる。

藍衣社とよく混同されるものにC・C團があつて、蒋介石を戴く秘密結社であることは同様だが、藍衣社が軍官學樣出身者を中堅とする軍人派であるに對し、C・C團は中央政治學校出身者を中心とする文人派ともいふべく、藍衣社がファツシヨ的専制主義であるに對し、C・C團は三民主義を固守するものであり、藍衣社はテロ行爲に出るをも辭さないに對し、C・C團の方は大體に文化

宣傳によるといふ、さうした相違がある。

没落する蒋介石のために、藍衣社とC・C團とは最後のあがきをあがいてゐることだらう。

— 完 —

388
368

月刊雜誌

喫茶街を中心とした

スマートな流行雜誌

喫茶街

菊判總アートの豪華版

定價三十錢

發行所 亞細亞出版社 振替東京一七二七番

支那の秘密雜誌を覗く No. 28

定價十錢

昭和十四年三月廿二日印刷 送料
昭和十四年三月廿五日發行 三錢

著述者 澁川 喬

編纂兼 清水 春作
發行者 東京市下谷區車坂町八九番地

印刷所 一教舎
東京市本郷區東片町五三番地

發行所 大陸書院
東京市下谷區車坂八九番地

電話下谷(83)四七六七番
振替東京七一、五二七番

配給所 亞細亞出版社

大阪市北區堂島上二ノ二五
京阪神特約店 新正堂書店

〔特約〕 東京鐵道局公認 (鐵道保養會・鐵道弘濟會) 啓徳社

全圖各賣店・ホム・街頭新聞・タソ・有名書店にあり

